

## 2008～2009年度ガバナーを終えて



国際ロータリー第2660地区

## ガバナー 横山 守雄

この1年間、ガバナーとしての職務を無事終了出来ましたことは、何よりも当地区内86クラブの会長・幹事さん始め、会員の皆様のご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

昨年の秋口より、世界では100年に一度の同時不況といわれる嵐が吹き荒れ、日本の景気が次第に悪化いたしました。職業人の集まりでありますロータリーの組織と活動は、社会・経済情勢に左右される部分が多分にあります。当地区内の会員数は、まだ年度末の数字は現時点では出ておりませんが、5月末現在では、依然としてプラスの数字が残っております。世界同時不況で会員の皆様の事業経営が厳しさを増しております中で、ロータリー活動の尊さに思いをはせ、会員の皆様が日頃のロータリー活動に大変ご尽力頂いておりますことに深甚なる敬意を表したいと存じます。

ロータリーは過去104年間の歴史の中で、大恐慌や世界大戦に何回か遭遇し、活動が停滞、或いは後退するという場面を幾度か経験しております。しかしながら、ロータリーはその都度いち早く立ち直り、発展を続けて参りました。今、日本の、そして当地区の会員数は、ここ10数年間に亘り長期低落傾向にあります。これは日本社会の少子高齢化、経済

活動の停滞という社会・経済情勢を反映したものであると思いますが、今まで続けてきた日本のロータリー活動と自分達のクラブ活動はこのままでよいのだろうか、現在の、そしてこれから先のロータリー活動は、どの様なかたちが望ましいだろうか、一回ここで立ち止まって、よく考えてみる必要があります。

この為に、各クラブへ長期計画の作成と、それに基づくCLPの導入が推奨されておりますが、CLPを単なる「クラブ組織の簡略化」と捉えておられるところが多分に見受けられました。私は各クラブ訪問の際に、現在のクラブを取り囲む社会・経済環境の中で、先ず現存のクラブ組織や活動内容について問題がないかどうか、全般的な棚卸を行い、次の3年ないし5年間に亘るクラブの新しい長期計画を立てていただくようお願い致しました。各クラブでCLPをご検討、或いは毎年見直される際に、将来の自分達のクラブの在り方についてシステマティックな分析を行い、新しい視点からの計画立案が必要ではないかと感じたからです。

少子高齢化時代の日本の中小規模のロータリークラブは、先ず如何にサバイバルを図るか、という点が最大の課題になっておりますから、例えば、ロータリークラブでのコストを、若い世代の人々や高齢者でも負担出来

るようなレベルへ下げていく、活動プログラムを高齢者も、若い世代の会員も楽しめるような、バラエティのあるものに変えていく、各クラブがそれぞれ特徴のある活動を持ち、クラブのアイデンティティを高めて魅力あるクラブへと変えていく、その様な工夫と変革が、特に中小規模のクラブにおいては必要と思われます。

企業の寿命は30年とよく言われておりますが、激動する現代社会におきましては、「ロータリークラブの命」も、今や必ずしも永遠ではありません。私たちのクラブが、これからいつまでもサバイバルを続け、更に発展してほしいという私たちロータリアンの「夢をかたちに」出来るのは、正しく「ロータリアン一人一人の手の中にある」のではないかと思います。

最後になりましたが、各クラブ及びロータリアンの活動支援のため、ガバナー諮問委員会の皆様、各組のガバナー補佐の皆様、地区各委員会の皆様、ガバナー事務所の皆様、川崎代表幹事始め地区幹事団の皆様には、それぞれ大変なご尽力を賜りました。また地区協議会、地区大会開催の際にはコ・ホストクラブの大阪そねざきRC及びホストクラブの大阪中央RCの皆様には、準備段階から終了まで、超我のご奉仕を賜り、改めて厚く御礼を申し上げたいと存じます。

今期、私は地区ガバナーとして、各クラブで、また地区活動で、数多くのロータリアンとの素晴らしい出会いの機会を得ました。そして皆様のそれぞれの素晴らしいロータリーの心に接することができました。お陰さまでロータリーで更に多くのことを学び、皆様にはただ感謝あるのみです。次年度は大谷透ガバナーのご指導の下で、各クラブの、そして地区活動が一層盛んになりますように、また第2660地区が益々発展しますよう、心から願っております。